

第4回豊明市高齢者福祉計画策定・推進委員会 議事要旨

日 時： 平成29年11月24日(水)14:00～15:00

場 所： 豊明市役所 東館 会議室4・5

委 員： 12名

事務局： 6名 内受託業者1名

【議事】

1 あいさつ

(委員長)

介護保険制度の改正は、

- ・保険者機能の強化、医療と介護の連携、地域社会との共生など地域包括ケアの強化
 - ・保険制度の維持のため、所得の高い層の負担割合が2割から3割になること
 - ・第2号被保険者の負担が報酬額に比例した負担となること
- などがあげられる。

2 議題

(1) 第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画 骨子(案)について

事務局より資料2(スライド)に基づき説明(略)／事務局・資料2 「地域での普通の暮らしをどう支えるか」一人ひとりのケアの実践から創る地域包括ケア

(委員)

豊明の先進的な取組についてはよく分かったが、他の市町村の状況について調査をしているか。

(事務局)

他の市町村から視察に来たときや、国の検討委員会にも出席しているので、そうした機会に情報交換や情報収集をしている。また、「おたがいさま センター ちゃっと」を始めるに当たって先進的な住民主体モデルを見学して取り入れている。

事務局より資料1(スライド)に基づき説明(略)／事務局

(委員)

支援の方は市町村の腕の見せ所だと思う。小規模多機能やグループホームの整備ができなかったということだが、どこの市町村も困っていると思う。豊明の強みと弱みはどんなところか。

(事務局)

要支援の方に対しては総合事業でいろいろな取組をしている。他職種ケアカンファレンスでは意見をいろいろ言い合いながら自立支援に向けて支援をしている。

豊明の強みは施設が多いこと。一方、弱みは在宅系サービスが少ないこと。これからは地域包括ケアシステムの構築を基本に考え、できるだけ在宅系サービスを充実させていきたい。介護事業

所だけでなくすべての資源を使って充実させていきたい。

(委員)

豊明団地がある二村台2・4・7丁目の高齢化は、団地周辺の方が高いのではないか。周りから見ると、団地の方が良く、活動に参加してみたいと思っている人も多い。

(事務局)

「けやきいききプロジェクト」は、団地で実施しているが、外から来るのも歓迎。アンケート調査では団地と団地以外の違いが明らかで、それらの課題を踏まえながら進めていきたい。

(委員)

アンケート調査には、介護離職に関する設問もあったが、介護離職や、介護職の確保についてはどのようにしていくのか。

(事務局)

市だけでなく、国としても安倍首相の新3本の矢として取り組んでいるが、全国的には負の連鎖になっている。働き方改革も含め、例えば事業所に対して保育所を持ってもらうなど働きかけていきたい。具体的に、これが効くと言うものはないが着実に進めていきたい。

(委員)

新聞や国のモデルとして豊明のことが取り上げられているのは誇らしいことで、また、事業所にとって質の向上が大切なことは分かっているが、特に小さな事業所では日々の業務が大変で「市が求めていることに対応するのは無理」という声も聞く。結果として、事業所が取り組めることに温度差が生じるのではないか。

建築関係者から聞いた話だが、豊明団地の環境がよくなっているので、外から移り住む人が増えていると聞く。例えば、名古屋市から豊明団地に移り住む独居高齢者が増えると、お金の面、ヘルパー等の介護資源が足りなくなる。もともと豊明市民であれば良いが、住環境が良くなることにより、転入者が増えるのも問題だと思う。

(委員)

老人クラブは60歳以上で加入できるが、現在の加入率は約21%で、約4,400人が加入している。亡くなって退会する人よりも若い人の加入が少なく、伸び悩んでいる。老人クラブの活動は、「健康」「友愛」「奉仕」の三本柱。最近は、生活支援、独居高齢者の訪問などに力を入れている。現在、27区、50クラブがあるが、活動の格差も見られる。

(委員)

平成37年は在宅系だけが伸びているが、施設は充足しているということか。

(事務局)

施設系は、市内及び周辺においては、新規では増えないと見込んでいる。若干増やしているのは、県からの指示で、介護離職への対応分などを見込んでいる。

(事務局)

現在のままでは、(施設入所者以外の方が全員在宅で問題なく過ごすことは)難しい面もあると思うが、施設で支えられない人たちを「在宅ケア」というのは、地域包括ケアの考えでもある。第7期

計画では、平成37年に向けて、在宅でのケアに力を入れていきたい。

(委員)

表に出てくる(地域と関わりがある)人はいいと思うが、表に出てこない人が問題。区長や民生委員でも個人情報把握できていない。例えば、災害時要援護者に登録をしていない人に対してどう対応していくかも問題である。

(事務局)

計画書には詳しく書いていないが、一人暮らし高齢者などに対しては、年末に民生委員にリストを渡し、訪問・見守りをしてもらうなど、少しずつ情報を把握している。確認できないことがあれば市に言ってほしい。

(委員)

介護度が低い方の入所率がなぜ高いのか相談員の立場から考えると、例えば、豊明団地にはエレベーターがないので、階段の昇り降りが障害となって、買物などの日常生活が困難になったり、転倒がきっかけで入院したり、認知症があるなど、特に家族が遠方だと心配して入所を勧めることも多い。その他、糖尿病食など家庭では食事の対応ができないなどがある。

(事務局)

豊明は施設に恵まれていることもあり、他の市町村と比べて入所率が高い。

健康を維持するために、栄養管理、運動、コミュニケーションが重要と思うので、それらを支援していきたい。資源に恵まれていることもあり、結果的に入所率が高くなってしまいう課題に対し、第7期計画では、「在宅生活の限界点を高める」ことを1つの目標にしている。

(委員)

施設入所は、要介護3以上ではないか。

(事務局)

・特養(特別養護老人ホーム)は原則要介護3以上だが、老健(老人保健施設)は、要介護1でも利用できる。

(委員)

夜間や週末をクリアできれば、重度の方でも在宅生活は可能だと思う。一方、認知症の方に対する見守りが課題でもある。例えば、認知症の方が老人クラブに参加しても、周りの方々がどのように対応して良いのか分からず、本人はみんなから遠ざかってしまう。豊明は環境因子が低いのではないかと思う。

(委員)

認知症の勉強会に参加し、パンフレット等がとても分かりやすく良かった。残念なのは参加者が少なかったこと。もっと広めてもらえると良い。

(事務局)

3月18日に認知症のシンポジウムを予定している。

(吉委員)

広報はどのようにするのか。

(事務局)

市の広報を中心に考えているが、届いていないと言う声もあるので、いろいろな機会を使ってPRしていききたい。

(委員)

豊明のいろいろな取組について説明があったが、認知度がどの程度あるのかが問題である。町内会や老人会を活用するなど、広報の仕方等を工夫してほしい

(事務局)

いろいろな協力を求めていきたい。一方で、興味を持ってもらうことも重要だと思うので、NHKや新聞等も活用していきたい。

(委員)

計画では、今後サービス量が増える見込みとすることだが、これを見て(需要があるからと言って)新たに事業者が参入してくるとは考えられない。むしろ辞めていく事業者が多くなると思う。説明の中で「介護サービス以外の生活支援を充実」とすることだが、具体的に何をしていくのか

(事務局)

事業者にとって、介護保険報酬が厳しいのは理解している。現在、市では級地区分の見直しを考えている

保険者としてできることは、多職種合同ケアカンファレンスなど専門職が集まって、モチベーションを高めてもらう機会と作っている。例えば、先進的な取組をしている埼玉県和光市には、全国から「働きたい」と言う人が集まってくると聞いている。豊明もそんなふうになれば良いと思っている。

(委員)

10数年前、デイサービスはどんどん増えた時期があったが、経営が厳しくなり、辞めていっている。現在、市内のデイサービス事業所は幾つあるのか。

(事務局)

小規模(地域密着型)がほとんどで、大規模事業所は2~3あるだけ。

(委員長)

本日の話は、大きく3つに整理できる。

1つめは、高齢者の多くが「自宅で生活をしたい」と思っていること。国が在宅の方針を示している一方で、豊明は施設が充実しているということ。

2つめは、計画を実現するためにはお金をどうするかということ。2月の会議前にできれば示してほしい。

3つめに、認知症の問題、介護する側からの問題。

(事務局)

第6期の基準額よりも少し上がることを想定している。一方、国の動きが確定されていないこともあり、現時点では確定できない。

(2)その他

・資料3 策定スケジュールについて事務局より説明

12月25日からパブリックコメントを実施し、2月に会議を開催予定。

- 閉 会 -

以上